

文書作成支援分科会

2018-03-05

多くの受験生の文書読解能力はAIに劣る

- 国立情報学研究所等の「ロボットは東大に入れるか」プロジェクト(2011~)

- ◆ さしあたり答えはNO (2016)

- * 入試の問題文が複雑

- ◆ 2016年の全国統一模試

	国語	数学IA	数学IIB	英語 R/W	英語L	物理	日本史	世界史	合計
満点	200	100	100	200	50	100	100	100	950
人間	96.8	54.4	46.5	92.9	26.3	45.8	47.8	44.8	437.8
AI	96	70	59	95	14	62	52	77	525

多くの人々の文書読解能力はAIに劣る

- 生徒は限られた試験時間内に効率的に得点を稼ぐための受験テクニックを使っている?
- しかし実務でも時間は限られているから、大人も同様のテクニックを使っていそう
- 米国の大学では在学中に批判的思考等の能力がほとんど向上しない
- 日本の大学教育の効果が米国のそれを上回るとは考えにくい
- まとまった内容の文書の作成・読解に日常的に携わっているのは勤労者のほんの一部

構造化文書の図式表現

- 従来型の文書の作成・読解の訓練を多くの人々に日常的に課するのは無理
- 文書自体を作成・読解しやすくする必要あり
- 第一義的には人間のため
 - ◆人間同士の意味共有と合意形成の精度と効率↑
→社会全体の生産性↑
- 機械のためにもなる
 - ◆データの1次利用
 - * 個票データを1回のサービスで活用
 - ◆データの2次利用
 - * 機械学習等
- 人間と機械の間の意味共有と合意形成

図式文書の例：特許の請求項

